

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	麻生区第3グループ(白山・麻生)	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H26		H27		H26		H27		
	1 白山こども文化センター ①年間延べ利用者数	28,801人	31,680人	②年間延べ利用団体数	1,297団体	1,334団体			
2 真福寺小学校わくわくプラザ ①登録者数	177人	190人	②年間延べ利用者数	8,541人	10,883人				
1 麻生こども文化センター ①年間延べ利用者数	19,814人	20,958人	②年間延べ利用団体数	208団体	201団体				
2 麻生小学校わくわくプラザ ①登録者数	392人	413人	②年間延べ利用者数	15,714人	16,126人				
収支実績	単位:円								
	1 収入								
	指定管理料	80,639,667							
	2 支出								
	人件費	66,792,819							
	管理費	6,921,981							
	事務経費	4,411,223							
	その他経費	3,132,076							
	合計	81,258,099							
	3 差引	-618,432							
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など地域を超えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施。								

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
<p>(評価の理由) 概ね、事業計画及び仕様書のとおり事業が実施された。白山こども文化センターの特徴としては、白山老人いこいの家との交流に取り組み、音楽を通して子どもたちを育て、地域とのふれあいをテーマとして進めようと、高齢者と子どもたちの「ふれあいコンサート」を実施し、多世代交流の促進を図った。また、地域のボプラ祭りやジョイントしてこども文化センター祭りを実施、当館の音楽室機能を活かした中高生バンド・成人バンドの出演など、音楽を通じた多世代交流・地域交流の促進を図った。</p> <p>麻生こども文化センターの特徴としては、運営協議会を中心に、利用団体や地域ボランティア、麻生小学校PTAや子ども会等の協力を得て、「じゃがいも・さつまいもを育てよう」・「サンサンキャンプ」・「麻生こども文化センターまつり」などの行事を実施し、「麻生こども文化センターまつり」では、こども文化センターと老人いこいの家の交流を行った。また、地域のボランティアの協力を得て実施した「あさおDEサイエンス」・「けん玉の日」は、幼児親子や小学生親子など家族での参加者が増加し、地域の世代を超えた交流を促進することができた。これらの取組により、利用者が増えている。</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続  効率的・効果的な支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費縮減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
<p>(評価の理由) 会計処理・金銭処理については適正に行われている。受託20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取り組みによる経費削減を図った。</p>					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	3	3
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
<p>(評価の理由) ホームページを作成し、インターネット利用者に利用案内や活動を周知するとともに、かわさきFMや地域広報紙への掲載などにより、PRを行った。また、各館で毎月たよりを発行して、近隣の小学校や関係機関へ配布し、事業内容の周知を行った。特別な配慮を必要とする児童への対応のため、定期的に巡回相談員の指導を受けるとともに、スタッフ会議での事例検討を実施した。また、学校と定期的に校長・教頭・特別支援教育サポーター・養護教諭・支援級担任との話し合いの場を設け、情報交換を行った。意見箱を設置し、施設の運営全般に関わる意見や要望を把握するとともに、地域教育会議・子ども会連合会・自治会等の地域行事への積極的な参加や近隣の保育園や学校、区役所等の行政機関や社会福祉関連機関などとの連携を通じて、地域ニーズの把握や意見・要望のリサーチを行った。運営協議会共催事業を実施して地域性のある行事を実施するとともに、地域の祭りやこども文化センター祭りのジョイント実施や老人いこいの家との交流など、多世代交流・地域交流を意識した事業展開を行った。また、白山こども文化センターにおいては、近隣の白山保育園と連携した行事を重ねることによって、両施設の相乗効果が見受けられた。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) 適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑な事業運営が行われた。研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的な研修が行われていた。また、業務評価プロジェクトを立ち上げ、内部で自己評価をするための取り組みを推進し、研修受講後は会議等でフィードバックし情報共有を図るなど、研修の効果を定着させる取り組みを行っている。個人情報等の取扱については、個人情報や電子データは鍵のかかる保管庫に保管されている。情報漏えいや紛失等の事実はなかった。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 利用者が安全に利用できるようマニュアルを作成し、施設・設備の安全点検を実施するとともに、迅速に修繕を行うなど環境整備に努めた。子どもと地域が一体となった防犯活動として、麻生警察署生活安全課の協力で、防犯に関わる講習を実施した。また衛生管理についてもマニュアルを整備し、利用者の安心・安全に繋げた。スタッフへのインフルエンザ予防接種費用を補助することにより、スタッフの予防接種を促進し、利用者等への感染リスクを軽減させる措置を取っていた。食物アレルギー対応の研修については未受講の職員の受講を義務付け、臨時職員の受講も促進した。アレルギー児にも対応した保存食及び保存水を配備した。また、地域の小学校や合築施設と協力し、合同避難訓練を実施した。</p>					

#### 4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

地域との連携においては、こども文化センターの事業を地域の関係機関や団体に積極的にアピールしており、地域の中でこども文化センターの認知度を深めていく努力が見受けられた。事業実施や防犯活動においても、運営協議会を中心として、地域と連携した事業展開とともに、高齢者と小学生の交流事業や小学生と中学生の交流事業など、多世代交流や異年齢交流を意識した事業展開が見受けられ、昨年度と比較して利用者数が増加している。また、法人全体の長年にわたる青少年分野におけるノウハウを活かし、職員の人材育成に取り組んでいた。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、こども文化センター及びわくわくプラザの利用者が安心して利用できるよう環境整備やスタッフのスキル向上に努め、利用者にとって各施設がより居心地の良い場となることを期待する。